〈 2020年1月～12月までの会計報告 〉

クラウドファンディングに関わる2020年9月19日～2021年3月6日までのコンサートは、別会計となる。
当会計に含まれる企画は、2020年2月24日無伴奏チェロコンサート及び
第5回西方音楽祭オープニングコンサート、リレーコンサート、お花見わらべうたのみ。

コンサート収入　268,200円（内、第5回西方音楽祭に対するメセナを通じてのご寄付50,000円、
メセナを通じないご寄付70,000円）
コンサート支出　474,017円
（コンサート赤字　205,817円←西方音楽館友の会会費で補てん）

コンサート以外の収入
西方音楽館友の会2020年度会費（12月31日現在）　A50名　B34名
合計　490,000円
うどん・カレンダー販売収益金　46,837円
ご寄付　48,250円
収入合計　585,087円

コンサート以外の支出
会報作成（22号、23号）＆郵送　約100,000円
運営委員会　8月16日と12月6日の2回　約60,000円
支出合計　160,000円

総収入　853,287円

総支出　634,017円
（総収入－総支出　219,270円は、別会計の「2020年9月19日～コンサート再開」事業に使用）

2020年9月19日～2021年3月6日までの再開コンサート 残り2企画
●2月23日（祝・火）14:30～
高橋弘治 J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲全曲演奏会シリーズ第2回（変則調弦スコルダトゥーラ）
●3月6日（土）14:30～
渡邊響子（ヴァイオリン）＆南部由貴（ピアノ）デュオコンサート　～ウィーンの香り～

2021年度西方音楽館友の会主催コンサート情報

2021年第6回西方音楽祭については、中面をご参照ください。

●5月30日（日）15:30～　ベートーヴェン　ヴァイオリンソナタ全曲演奏会シリーズ　第1回
バロック・ヴァイオリン：廣海 史帆　フォルテピアノ（ワルターモデル）：羽賀 美歩
●7月18日（日）15:30～　サティのいたパリ　ピアノ：七條恵子
●ムジカ・レセルヴァータコンサート（日程未定）
フラウト・トラヴェルソ：国枝俊太郎　バロック・ヴァイオリン：小野萬里　バロック・チェロ：高橋弘治　チェンバロ：岡田龍之介
●久元祐子　モーツァルト　ピアノソナタ全曲演奏会シリーズ　（11月下旬を予定）
モーツァルト：ロンド　KV511
ソナタ　ヘ長調　KV533/KV494 他
●2022年1月8日（土）15:30～　川口成彦フォルテピアノリサイタル
9日（日）川口成彦によるフォルテピアノレッスン
●2月　日にち未定
高橋弘治 J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲全曲演奏会シリーズ第3回

資金が得られたら開催予定のコンサート（日程未定）
●トリオ・ハービッヒ　ファニー・メンデルスゾーン　ピアノトリオ演奏会
ヴァイオリン：高橋奈緒　チェロ：高橋麻理子
フォルテピアノ（ハービッヒ製作）：羽賀美歩

●武久源造　ジルバーマンピアノコンサート

「赤ちゃんとお母さんのための音楽会」及び「木洩れ陽音楽談話室」は、
新型コロナウィルス感染の収束が見通せるまでお休みいたします。

こ・ぼ・れ・話

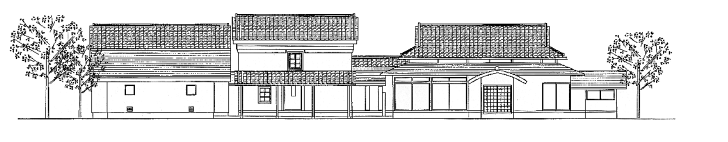
抑圧的な日々は、いつまで
続くのだろうか？
新型コロナウイルスは、
我々人間を試しているよう
にも思える。
体が負けてしまうことが
あっても、心は負けたくない！

中新井紀子

西方音楽館友の会会員募集

西方音楽館友の会会員募集（毎年4月が更新の時期です）
A会員：3,000円（50名）　B会員：10,000円（34名）　S会員：50,000円　G会員：100,000円（2020年12月31日現在会費をご納入の方）
それぞれコンサートへの特典があります。西方音楽館友の会主催コンサートは、会員の会費で支えられています。

西方音楽館友の会運営委員：中新井紀子（西方音楽館館長）、岡田龍之介（チェンバロ奏者）、小川和隆（ギタリスト）、木下大輔（作曲家）
高田良久（医師、下野楽遊代表）、中新井諒子（国立音大卒、クラリネット）永田美穂（音楽学）、山村多恵子（オカリナ奏者）



2021. 2

木洩れ陽の窓から

No. 24

西方音楽館友の会会報

編集・発行人　中新井紀子

西方音楽館
322-0601
栃木県栃木市西方町金崎342-1　TEL 0282-92-2815　E-mail info@wmusic.jp　Web http://wmusic.jp

音楽に何が出来るか
― その2 ―

中新井紀子

私にピアノを習い始めてかれこれ40年弱、もう90代半ばの方がいらっしゃる。

寒くなるといらっしゃれなくなるとのことで、昨年最後のレッスンで、これまでその方がお弾きになった曲を何曲か弾いて差し上げると、これが一番いい！ とおっしゃるので、何度何度も繰り返し弾いて差し上げた。アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳にも載っているとても短いコラール前奏曲「Wer nur den lieben Gott lasst walten コラールの意味：愛する神様にすべてを委ねる者は、どんなに困難な時も、神様が傍にいて、揺らぐことがない」BWV691。リュックサックを背負って電車を乗り継いで通っていらっしゃった健脚な方でしたが、いよいよと言うかやっとお年寄りっぽくなられ、足腰が弱くなられ、姪御さんの車でいらっしゃるようになった。熱心なカトリックの信者でいらっしゃるが「キリスト教に出会ったのは、ミッションスクールの先生になってから、でも音楽はそのずーっと前から、どういう訳かは分からないけど心の中にある」と。お兄様方は、クラシックのレコードを聴いたり、詩を作ったり、絵を描いたりと、非常に文化芸術に関心の高いご家庭でお育ちなので、幼少のころからクラシックの音楽を、訳も分からず身に染み入るように聴いていらっしゃったと推測できる。そして「音楽が無いとだめ」とも。一人の人間の人生を、幼少期から90代半ばまで、音楽はずっと寄り添ってきた訳だ。

新型コロナウィルス感染拡大のため4月から休んでいた友の会主催コンサートを、9月から再開した。涙が溢れたとおっしゃる方がこれまでになく多くいらっしゃった。久しぶりに生の音楽に触れたこと、且つその演奏がとりわけ深い感動を与えるものであった故、と思われるが、涙が溢れるほどの深い感動、魂を揺さぶるほどの感動、を音楽は人に与えることが出来る。浄化作用（カタルシス）と言ってしまえばそれまでだが、それだけでは言い尽くすことは出来ないのではないか。感動した者にとって、それは自己肯定、これまで生きてきた道程をすべて肯定するほどの出来事なのではないだろうか。生きていてよかった、生きてきてよかった、という自己肯定に繋がるのではないだろうか。

人生に寄り添い、感動を与え、生きていることの肯定感を与える音楽。人間が生きていくうえで、音楽はとても大切なもの、人生を音楽と共に歩んできた方々には、必須のもの。コロナ禍でも、音楽と共に歩む人生を、途切れさせたくはない！と強く思った。